

あなたも自然の守り人！

アイドリングストップや公共交通機関の利用

二酸化炭素の排出量を抑え、温暖化を防止します。

新型コロナウイルスの影響もあり自転車の利用が増えたのでは？



焼却ごみの減量とリサイクル品の分別

再利用できるものはできる限り分別し、焼却ごみを減らします。

お菓子の包み紙や調味料容器、おもちゃなどプラスチック製品の多さに驚きます。プラスチック製品は焼却ごみではなく専用袋へ入れましょう。



クールビズやウォームビズ

服装調整することで温暖化の防止につながります。

ノーネクタイもクールビズのひとつです。



マイバック（エコバック）の利用

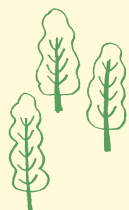
プラスチック製のゴミ袋の消費を減らし、レジ袋が川等に流れてしまうことを防ぎます。

うっかりコンビニに入る際、忘れてしまう人がいるかもしれません。



自然を守るために私たちができること

生活スタイルが時代により変化していく中で地球温暖化の防止や廃プラスチックの問題など、地球規模で取り組んでいます。実は私たちが普段の何気ない生活の中で自然を守るための活動を実践しています。



水環境の改善が大きな要因か？

琵琶湖の宝石が甲賀市に！

2016年に市内の野洲川上流や杣川で数十年ぶりに、これまで県北部地域で確認されることの多かった『ビワマス』の遡上（上流にのぼる）が確認されました。

ビワマスは、全長約40cm、琵琶湖固有の魚で、9月から11月にかけて、雨の後の増水時に琵琶湖から周辺の河川へ産卵のために遡上する魚です。

下流での川底をなだらかにする整備により水環境が改善され、これまではのぼれなかった場所を通れるようになったことが要因ではないかということです。

さて、今年はビワマスを確認された方はおられるでしょうか。



▲ビワマスの遡上確認された水口大橋付近の野洲川（鬼頭洋一氏撮影）



◀琵琶湖の宝石と言われるビワマス（提供：県立琵琶湖博物館）

※なお、捕獲は絶対にしないでください。

今に残る甲賀の自然

現在の甲賀市の自然は、そのほとんど隔々まで、人の手が入ることによって形成されたものです。

甲賀市の森林の多くは、一部の社寺林などを除き、古くから人が伐採を繰り返した結果にできた雑木林で、生活に必要な主材に薪炭などの材料を得ていました。また鈴鹿や信楽の山地ではスギやヒノキの植林を行い材木や板などの建材を育てています。

一方県内では最長となる野洲川は、鈴鹿山脈の源流から始まり琵琶湖へと注ぎます。市内の野洲川は、鈴鹿山脈から運ばれた砂利の広がる河原が見られ、河川周辺では砂利層の中を流れる地下水が豊富であるなど、都市部の河川には見られない自然の生態系が残っているのが特徴です。



人と里山の深い関わり

なくてはならなかった里山

人々は古くから、近くの山や森からお風呂やかまどで使用するための薪、家畜の食糧としての草など、生活のために必要な資材を得ていました。このように自然を継続的に利用する目的で、適度に手を入れることで形成された場所を「里山」と呼んでいます。

今に残る甲賀の自然は昔からこの地に暮らしてきた人々が創り上げてきた甲賀らしい自然の姿なのです。

里山に学ぶ有効活用への教え



暮らしとともにあった里山には現代の私たちが見習うべき点があります。それは「捨てる」という考えが限りなく少なかったことです。

里山の落ち葉は田のたい肥に、刈り取り後の稲わらは草履や家畜の敷きわらとし、古くなれば畑のたい肥として再利用する。みんなが生活の中で知恵を絞り、どんなものでも有効活用していました。

はまだ使えるので再利用しよう、服や靴、鞆なども必要以上に持たないなど『もったいない』という自身の中にある気持ちを大切にしましょう。

そして、これからも私たち一人ひとりがきれいな甲賀の自然を残していけるよう引き続き取り組みを進めていきましょう。